

# あかしあクラブ お知らせ 2月号 2021.2.1.



寒アヤメ 1月から3月にかけて霜や雪の中で10cmほどの鮮やかなブルーの花を多数咲かせます。路地に植えっぱなしでも株はどんどん大きくなり手間要らずです。ただ、葉の間に咲く花茎が短く、花が葉に隠れてしまうため、まわりの葉を切り詰め、花を目立たせる必要があります。

コロナに関する情報収集で、たまたま和歌山県の仁坂知吉伸知事の新型コロナウイルス感染症対策のメッセージ（昨年2月19日～本年1月末）を和歌山県のホームページから見つけた。総文字数23万字（A4約200頁）の長編を年末年始で読了した。2020年2月16日に発生した済生会有田病院での国内初のクラスター発生を契機とした県保健行政のコロナへの対応が53報に分けて詳細に述べられている。カタカナ・ワンフレーズの政策説明ばかりのなか、為政者には、科学的知見・データに裏付けられたくわしい説明が求められている。

和歌山県では、①県福祉健康行政が独自の基準で広く検査を行い、徹底的に感染者の行動履歴を追い感染経路不明を最小に押さえる。②無症状者・軽傷者もまず入院してもらい感染拡大を防ぐ。③科学的・論理的・蓄積したデータに基づき政策の技術向上をはかる。④個人情報保護に配慮しながらも積極的な情報公開をしメッセージを伝える努力が必須であると説く。加えて、欧米には、日本のような感染者を見つけ出して隔離するという感染症法がなく、それを行う保健所も機能していないために感染者が爆発的に増えていると指摘する。女性の優秀な保健局長が知事を支えている。

三田市のコロナ対応へのメッセージの発信は極めて弱い。保健行政は、基本的に県の仕事であるため、市は県にまかせておけば良いのかも知れないが、保健事務所が三田にないため、県からの情報以外は得れないと公言してはばからない。市内の感染者の数についても人権への配慮からリアルタイムの発表は行われていない。危機管理の観点から考えると、まずは感染情報の正確な発信、その後に人権への配慮を説いてもらいたい。和歌山県知事のメッセージ程ではなくても良いが、県まかせではなく、市独自のコロナ対策をアピールして欲しい。ちなみに、三田市民病院長は昨年7月の病院ホームページに三田市民をコロナから全力で守るとの力強い声明を発信してくれている。

五十数年前、『自分たちで命を守った村』菊池武雄著、岩波新書、1968、を涙しながら読んだ。岩手県旧沢内村（現和賀郡西和賀町）で、村民の命を守ると決意し、雪を克服し、乳幼児と老人の医療費を無償にし、日本の保健行政を辺境の村からリードした深沢晟雄村長の8年間の記録である。また、長野県佐久総合病院で農村の予防診療・巡回医療で活躍し日本の保健行政に大きな影響をあたえた若月俊一の『むらで病気と闘う』岩波新書、1971、も感動的な書物である。それぞれ、二人の先人にリードされた岩手・長野両県は、今回のコロナへの保健行政では特筆すべき成果をあげている。コロナ感染拡大を契機として、日本の福祉保健行政の再構築・充実を期待したい。

三田市健康福祉課には、ワクチン接種に向けて、積極的な情報発信と迅速なる対応を期待する。  
Y.O.

## 《今後の活動予定》

◎社会奉仕活動（清掃活動）2月はお休みです。

◎ウッディ・カルチャー地区耐寒ウォーキング 2月19日（金）の予定でしたが中止とします。

## 《定例活動》あかしあクラブの各同好会・サークル活動

◇ 教養研修活動：女声コーラス『ポッポあかしあ』毎月 第2・第4木曜日（しばら活動休止）

◇ 社会奉仕活動：ふき取り布つくり 毎月 第3木曜日（しばらく活動休止）

◇ 教養研修活動：ふれあい囲碁・将棋の会（しばらく休止）

◇ 健康増進活動：18練功 毎月 第1・第3月曜日 13時～（しばらく活動休止）

◇ 健康増進活動：グラウンドゴルフ 1・2月は例年どおりおやすみです（2月は休止）

兵庫県の高齢者フレイルに関するパンフレットを同封します。ご一読の程、よろしくお願いいたします。